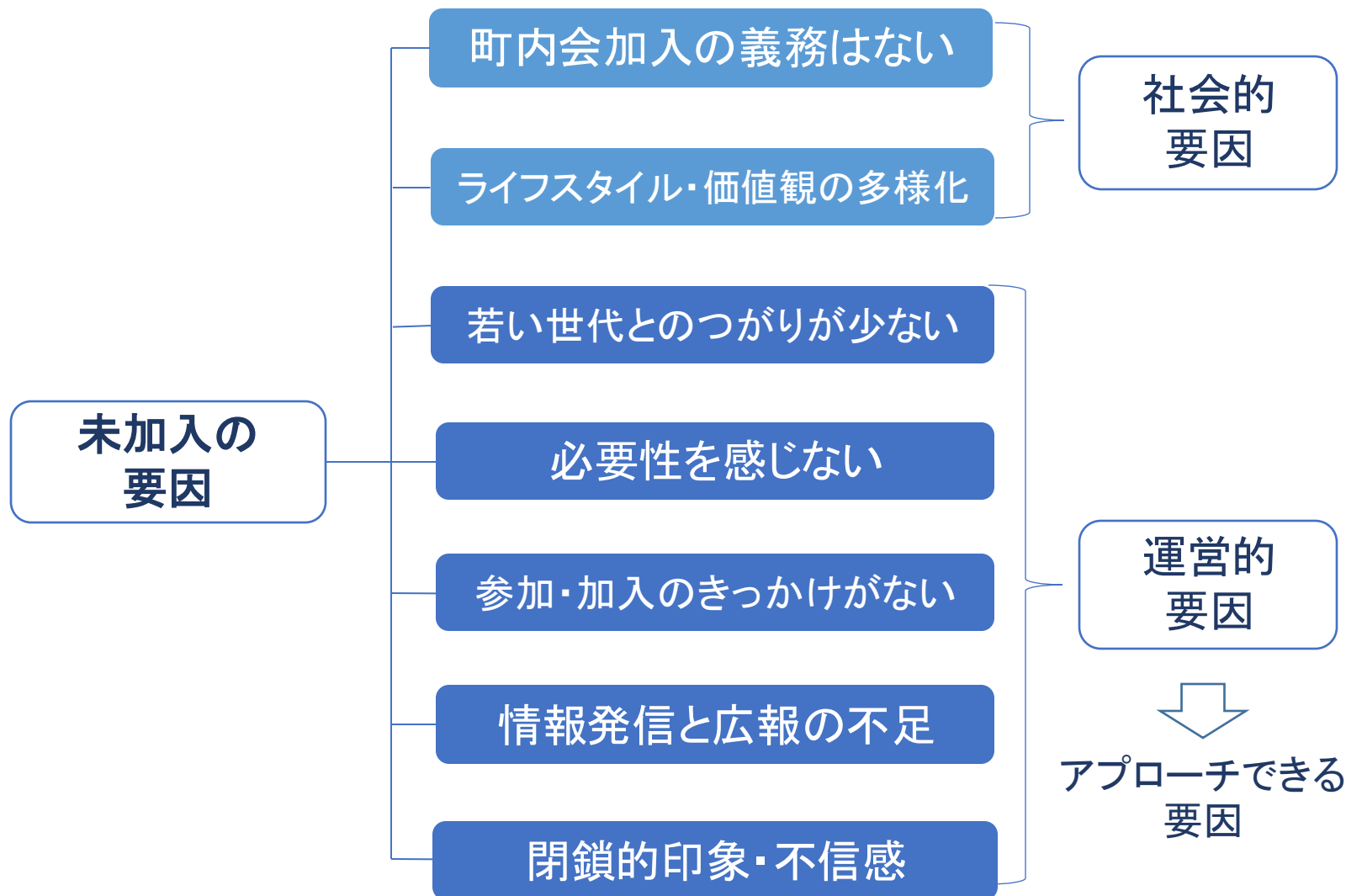


# 町内会・自治会の加入促進



# (1)町内会の加入率の低下の要因

- 全国の自治体では町会の加入率の低下が進んでいます。



## 高齢化

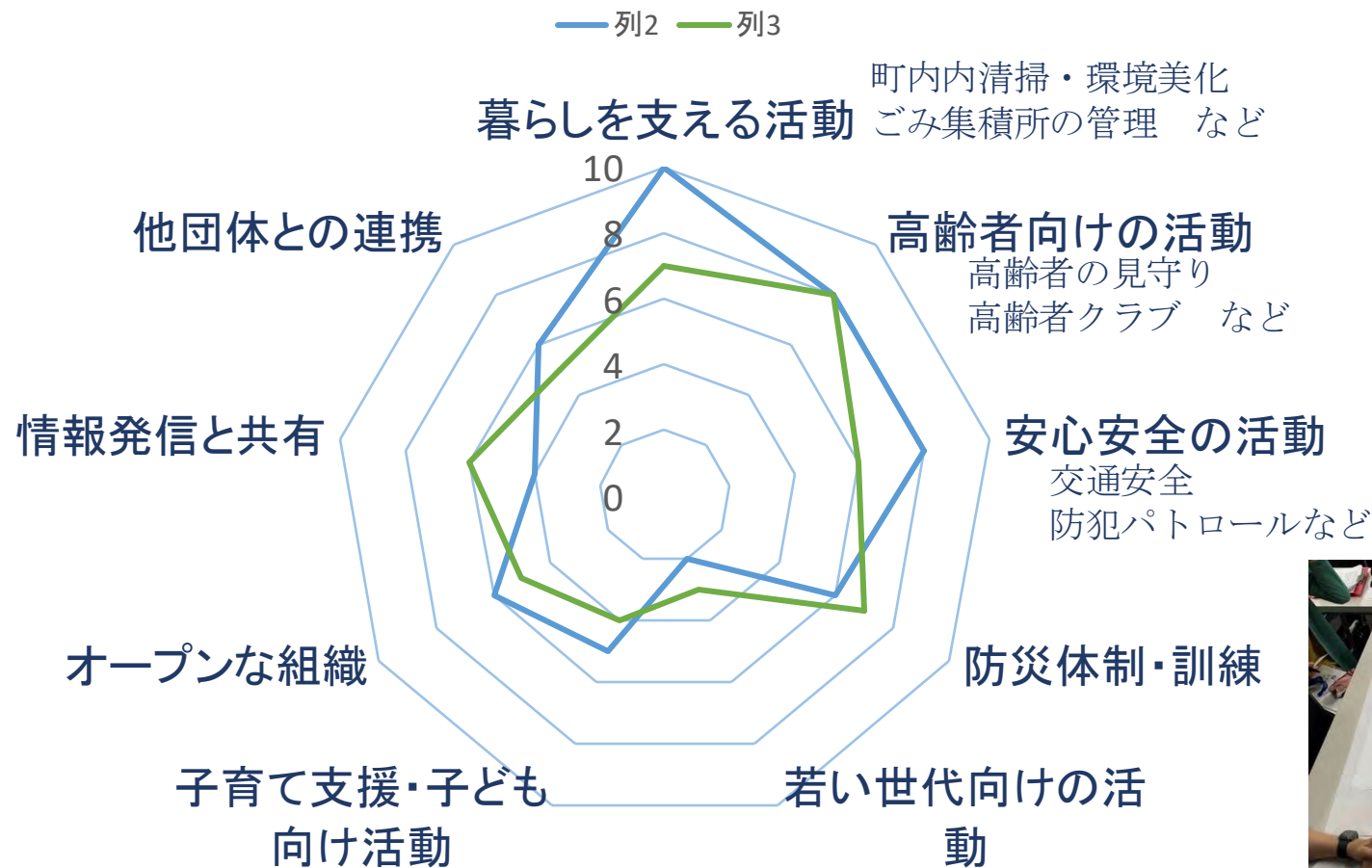
- 住民の高齢化と同時に、役員も高齢化が進み、町内会・自治会の活動が高齢者中心になってしまっています。

## ライフスタイル・価値観の多様化

- 賃貸住宅などに暮らす若い世代は、職場と自宅の往復の中で町内会・自治会を知らないこともあります。
- 新型コロナウイルスにより、ライフスタイルが大きく変わり、町内会・自治会に求めるニーズが変わって来ています。
- 町内会・自治会でもデジタル化を進め、効率的な運営が求められるようになりつつあります。
- 孤独を感じる若い世代が増えており、同時にコミュニティへの関心を追持っている若い世代も増えています。

若い世代とつながりが少ない

## ○全国の町内会・自治会の活動



## ○高齢化社会のため高齢者中心の活動になっている町内会

- ・ 急激な高齢化により、役員の高齢化、そして高齢者向けの活動が中心になっている。

### ■ある町内会の年間行事

	主な活動	主な参加者
4月	町内会総会・懇親会	役員・班長
5月	清掃・健康体操	清掃は住民/健康体操は高齢者
6月	お祭り	住民全体
7月	健康体操	高齢者
8月	カラオケ大会	高齢者
9月	防災訓練・秋祭り	住民全体
10月	清掃・健康体操	清掃は住民/健康体操は高齢者
11月	カラオケ大会	高齢者
12月	クリスマス会・餅つき	子ども
1月	新年交流会	役員が中心
2月	健康体操	高齢者
3月	進学祝い金	子ども

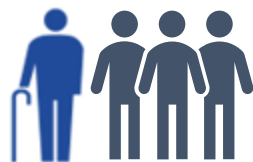
## ○役員と住民のつながりが少なくなっている

### 町内会役員

60代・70代・80代が中心

役員の数も多い

役員の担い手  
不足が課題



- ・町内会全盛期(昭和)をイメージ
- ・高齢者による  
高齢者向けの活動が中心
- ・若い世代は町内会に関心がないと思っている



つながりが少ない

### 地域コミュニティの住民



現役世代(～65歳)  
コミュニティには関心



子育て世代  
子育て支援へのニーズ



若い世代  
孤独感  
コミュニティへの高いニーズ

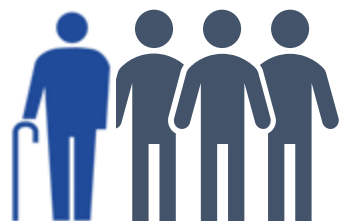
## 必要性を感じない

- 役員と会員の距離が出来てしまい、ニーズに対応した活動が十分できないこともあり、加入の必要性を感じてもらえていないことがあります。
- 多様化する会員のニーズを把握し、活動の棚卸しや新たな活動を展開することが必要です。
- ニーズに対応することで、町内会の運営を理解してもらい、活動に参加・協力してもらうことができるようになります。

## ○若い世代との違い

### 昭和の活動を継承

運動会  
忘年会・新年会  
バス旅行  
高齢者クラブ  
健康イベント  
マスメディアで情報  
回覧板・電話

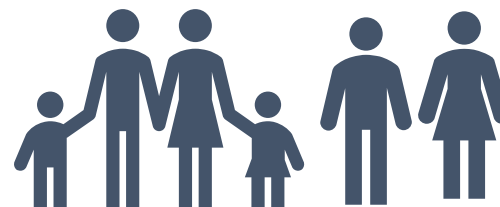


町内会の役員世代

60代・70代・80代

### 楽しくことをしたい令和

ハロウィン  
クリスマス会  
キッチンカーイベント  
子育てサロン・地域食堂  
コミュニティカフェ  
インターネットで情報  
SNSでコミュニケーション



現役世代・若い世代・子育て世代



## ○若い世代のコミュニティへのニーズ

### 育児中の住民



- 子育て中は孤独になりがち
- コミュニティのなかで子育てのアドバイスがあると良い
- 情報はInstagram、LINEで欲しい

### 子育て世代



- 子ども向けイベントがあるとよい
- 多世代交流があるとよい
- 地域食堂などがあると助かる
- 子ども向けのクリスマス会などは手伝える
- 情報はInstagram、LINEとかで欲しい

### 若い世代



- コミュニティは大切だと思う
- 孤独を感じている
- 適度な人のつながりは必要
- コミュニティカフェなどコミュニティの場が欲しい
- お祭りは楽しみにしている
- 情報はInstagram、LINEとかで欲しい

## ○集合住宅でも町内会へのニーズはある

他の地域の住民アンケートでは、  
広い世代から支持が多いイベント

マンションに子育て世代が多く  
入居するようであれば、町内会  
に関心を持ってもらえるイベント

お祭り

デジタル  
回覧板

子育て  
サロン

子どもの  
イベント



情報を伝えるためにデジタル回  
覧板なども必要

マンション購入者も防災のことは  
気になるポイントです。  
町内会が防災活動をPRしてマン  
ションの方々に参加してもらうこ  
とが加入促進うえからも効果的

防災訓練  
DIG  
(図上訓練)

初めての地域のことは誰もが知  
りたいと思っている。  
町内会で新しい住民にまちのこ  
とを案内するイベントは自治会を  
知ってもらう上からも効果的

まち歩き  
イベント

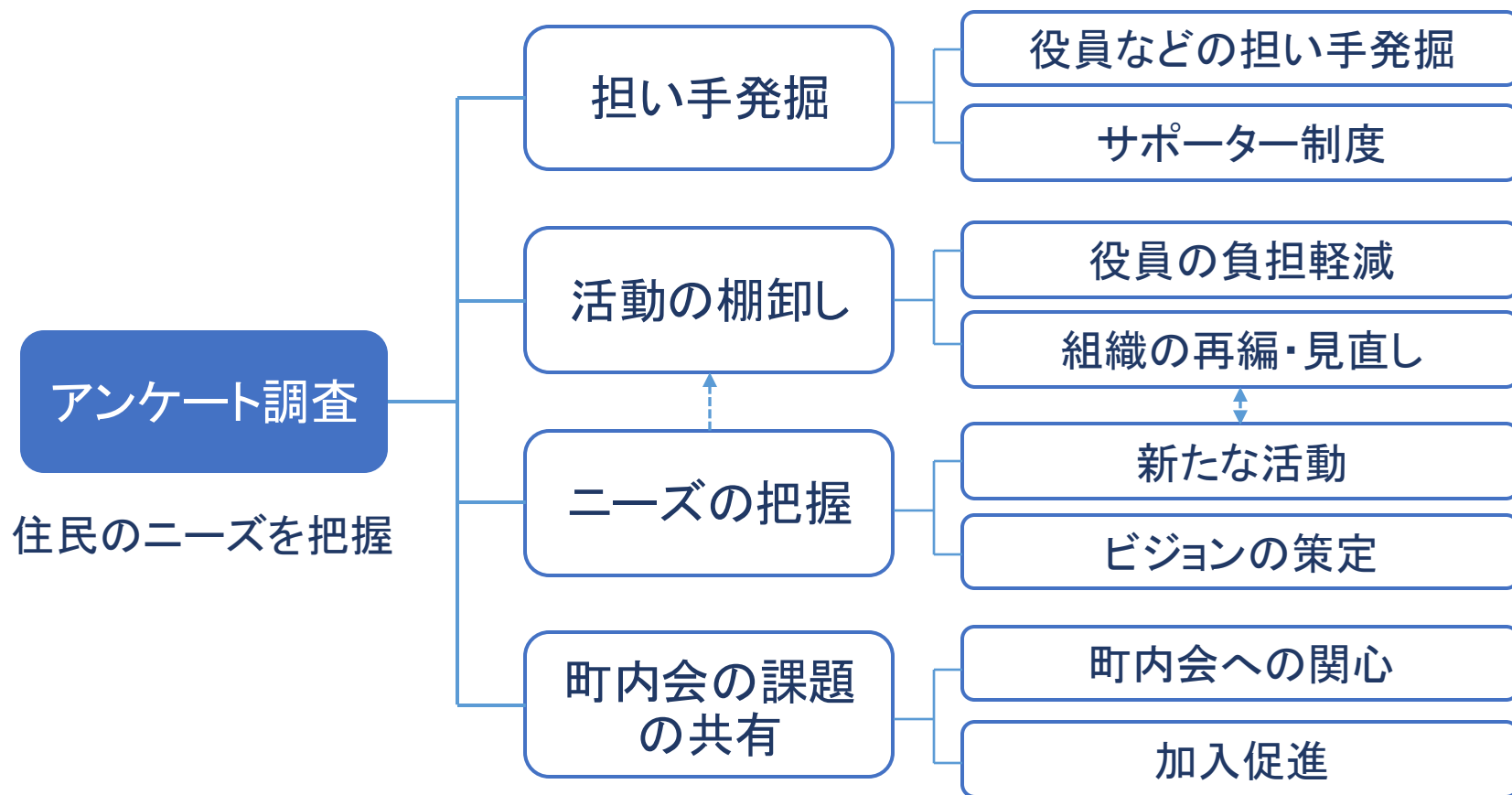
## ○子育て世代とのカフェミーティング



座談会は託児スペースと保育士さんにサポートしてもらうことで  
参加しやすい会になります

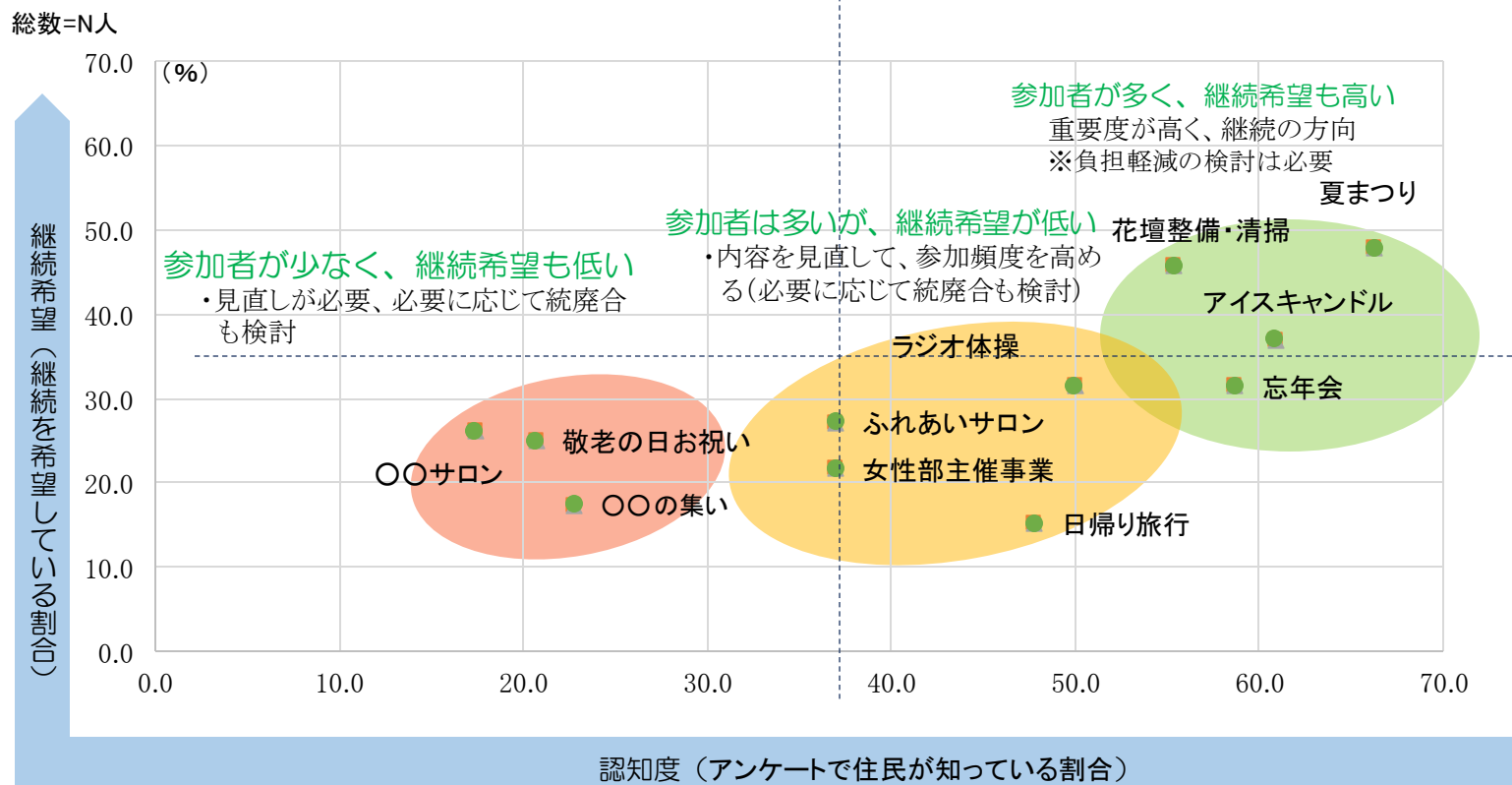
## ○アンケートの実施支援

- アンケートで町内会の活性化を進めることを示すことが、オープンな町内会への第一歩です。



## ○ニーズに基づいた活動や組織の見直し

- アンケートの結果に基づいて活動の棚卸しを行います。
- アンケートに基づいて活動を行うことが必要です。
- ただし、アンケートでは少数となりがちな子育て世代、若い世代のニーズはしっかり取り入れることが必要です。



## ○イベント・お祭りへの参加

- 子育てサロンやハロウィンイベントクリスマス会、eスポーツ大会、マルシェ、フリーマーケットなど住民のニーズにあったイベントを開催し、そこに未加入者も参加してもらいながら町内会に対する理解を深めてもらい、加入してもらうようにします。
- 地域のお祭りは、各世代から支持がある行事です。未加入世帯も多く参加しますが、町内会が実施していることを知りません。子どもに配布するお土産などに町内会が実施していることを明記し町内会活動に理解を深めてもらうことが大切です。

## ○コミュニティの場づくり

- 地域の人が自由に参加できるカフェでの茶話会や、コミュニティ居酒屋、地域食堂などを開催することで未加入者との接点をつくり、町内会活動への理解を深めてもらいます。
- こうした活動を町内会会館などを活用しながら実施することも効果があると考えられます。
- あいさつから、緩やかなひとのつながりをつくり、町内会への理解へつなげます。



## ●交流の場と機会：町内会館を居酒屋（札幌市豊平区）

- 役員の担い手不足や町内会行事に対する参加者の固定化が課題だった。
- 近隣に大学があるため、学生や若者が多かったことなどから、世代間交流事業として、町内会館での居酒屋がスタート。
- 大学生なども手伝いに来てくれ、町内会に関わるきっかけになった。
- 年に6回、奇数月の第3土曜日に開催している。
- 子どもを連れて参加できることもあり、少ない時でも60人、コロナ後は100人程度が参加している。
- 賃貸住宅やマンションの居住者も数多く参加しており、そこから町内会活動をサポートしてくれるメンバーも増えている。
- 町内会の役員と女性部が中心となって運営している。



## ●デンマークでもコミュニティ・キッチン

- 多様な働き方や家族のあり方が浸透してきた一方で、大都市で一人暮らしをしていたり、コロナ禍でなかなか人と気軽に会うことが叶わなかったりと、人知れず孤独を抱えている人も増えました。
- それは海外でも同じで、デンマークでは、日本の地域食堂的なコミュニティキッチンが行われるようになっていきます。
- 特にデンマークの首都コペンハーゲンでは、2018年頃から、人々が集まって食事をするのが大きなトレンドになっています。
- ボランティアで運営されているデンマークのコミュニティ・キッチン「One Bowl」。
- 彼らは現在、毎週日曜日の17～21時にオープンしており、プラントベースの食事を寄付制で提供している。
- 運営はすべてボランティアで行っており、寄付で集まったお金はOne Bowlの運営や、食料不安を抱える人たちのために使われる。
- 毎週日曜日に寄付制で食事を提供しており、経済的・社会的状況にかかわらずさまざまな人が集まり、一緒に食事をするできるようになっています。



KITABA



出典:<https://elemminist.com/article/2634>



## 情報発信と広報の不足

### 情報発信・情報共有（デジタルでつながる町内会）

- みんなが町内会を知っているとは限りません。
- 回覧板では情報は届いていないと考えましょう。
- 情報が届いていないため、「町内会を知らない」「参加するきっかけがない」といった声につながります。
- 若い世代向けにSNSで情報発信を行いましょう。

#### 若い世代



- 子どもの頃、お祭りに参加した
- 今は町会は知らない
- 回覧板はみたことがない
- 新聞は取っていないしテレビも見ない
- 情報はSNSから
- SNSでつながりコミュニティをつくることもある

## ●世代によって異なる利用するSNS

10代・20代前半



新聞・テレビは見ない  
ネットで情報収集

20代・30代・40代



Instagramで情報収集

50代・60代・70代



Facebookが多い  
コミュニケーションはLINE

## ●町内会のデジタル化とツール

- 町内会加入世帯向けのツールと未加入世帯も含めたツールを使い分けることが大切です。

### 町内会未加入世帯も含む

#### 町内会加入世帯    ルールが必要



役員会

LINEグループ

- ・町内会専用アプリ
- ・LINE公式アカウント
- ・LINEオープンチャット
- ・LINE WORKS など

チャット機能  
電子回覧板  
書類・データの管理  
カレンダー機能



活動の見える化  
情報共有  
イベント参加の告知  
(参加のきっかけ)  
加入促進

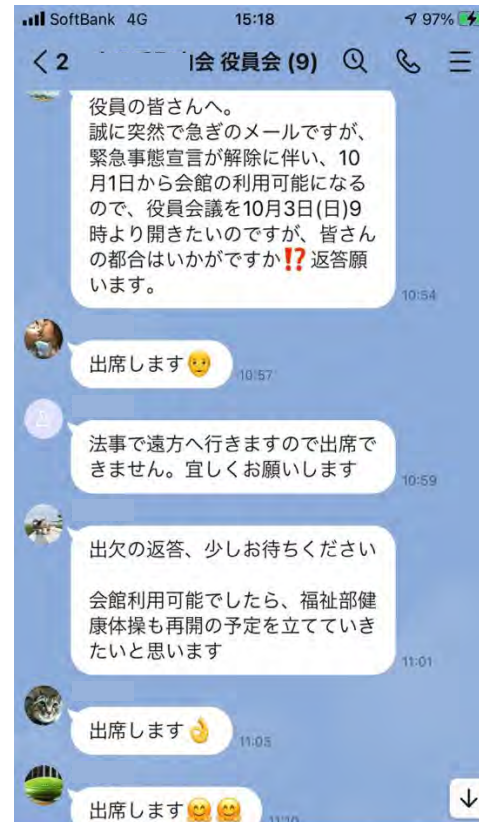


Instagram  
Facebookページ  
ホームページ



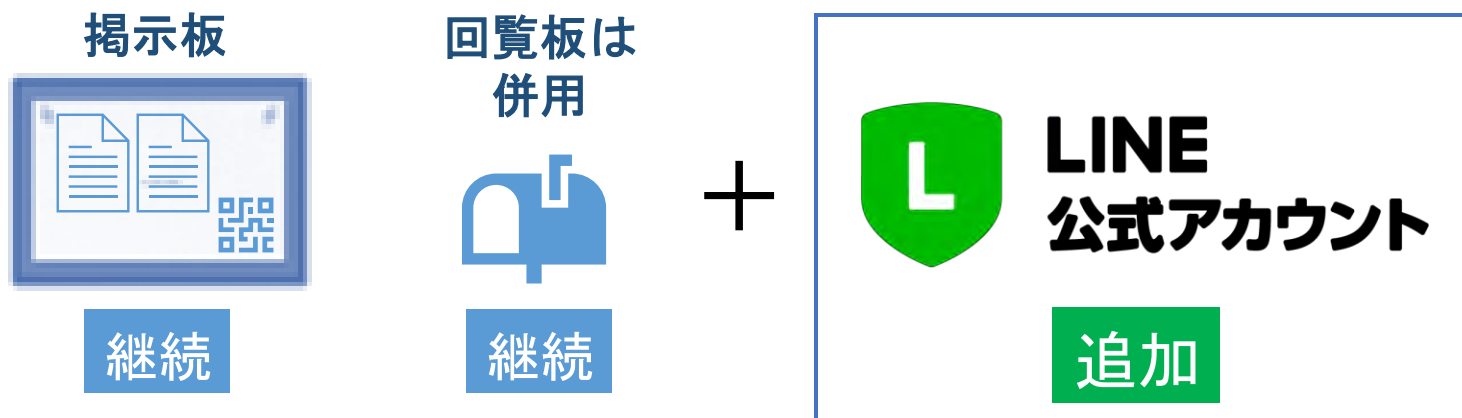
## ● LINEグループを活用した役員内のコミュニケーション

- 役員間では、LINEグループで情報共有や合意形成を行います。
- 役員間の連絡の手間や役員会の回数を減らすことができます。
- LINEグループで役員の負担が軽減することで、現役世代が参加しやすい町会運営につなげることが大切です。



## ● LINE公式アカウントを活用した電子回覧板

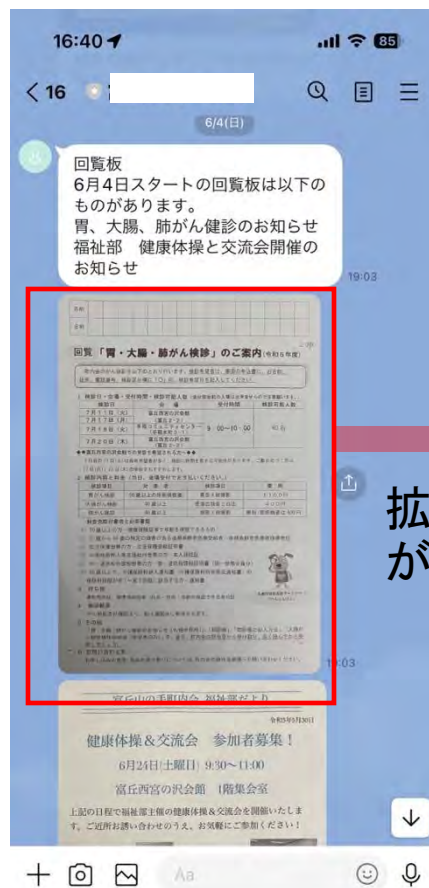
- 複数の媒体で町内会の情報を発信する
  - 会員の皆さんのライフスタイルに合わせた情報発信を多様化させること



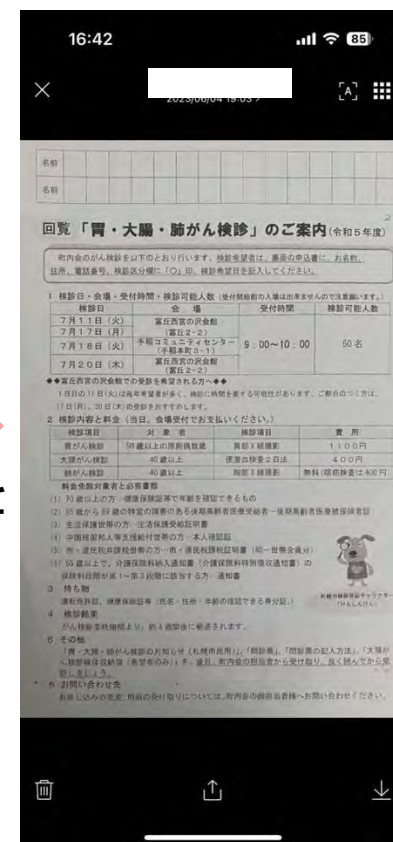
- リアルタイム(即時性)の情報発信ができる
  - 災害時など緊急時の対応やお知らせの発信に効果的
  - 会員に知らせたい情報、協力してもらいたい情報がある際、すぐにお知らせできる

## ●LINE公式アカウントを活用した電子回覧板

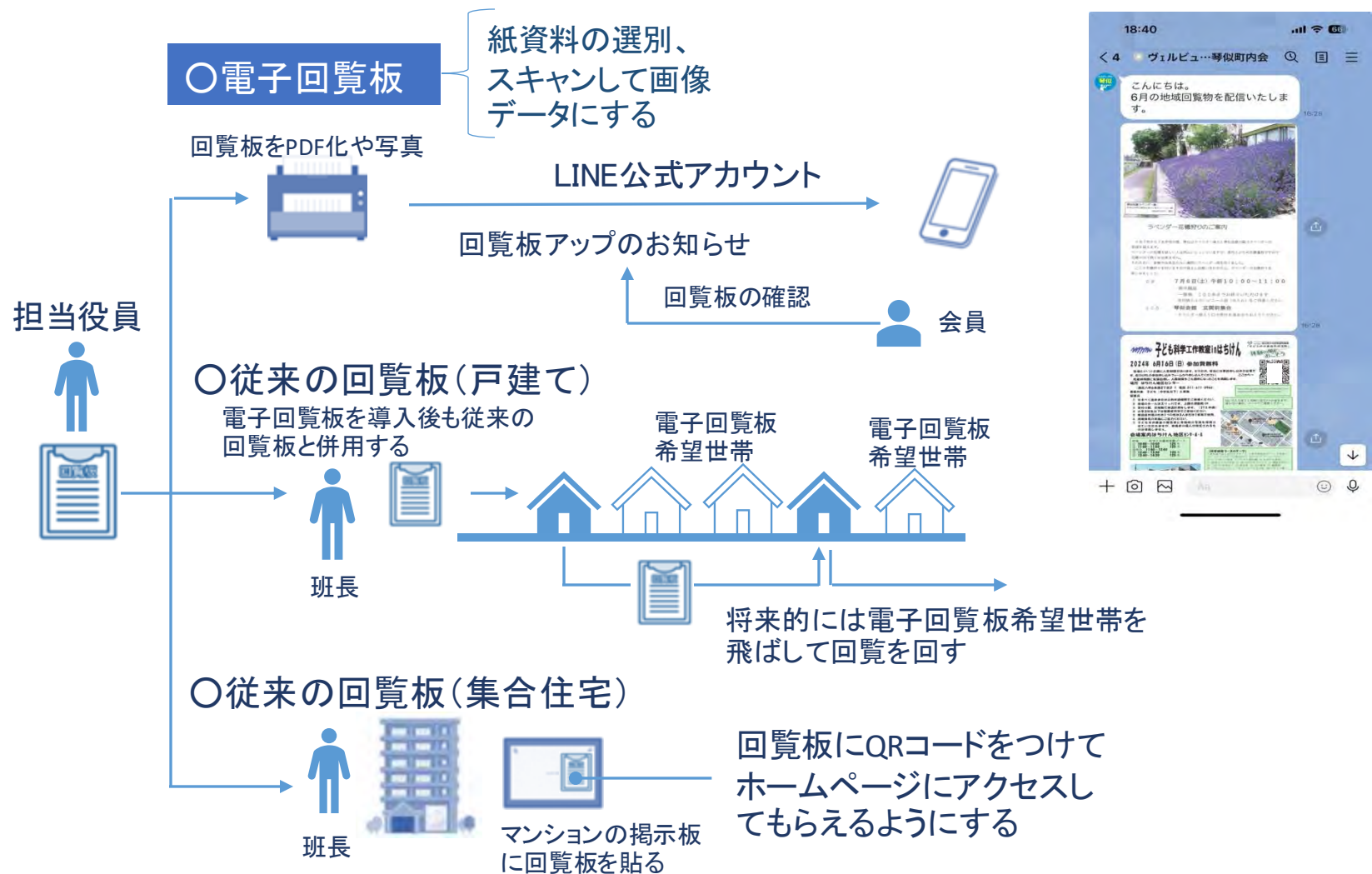
- 回覧板の概要を伝える文章と回覧板を画像にしたものをアップします。



拡大して見ることが  
できます



## ●LINE公式アカウントで回覧板（イメージ）





## ●Facebookページで情報発信

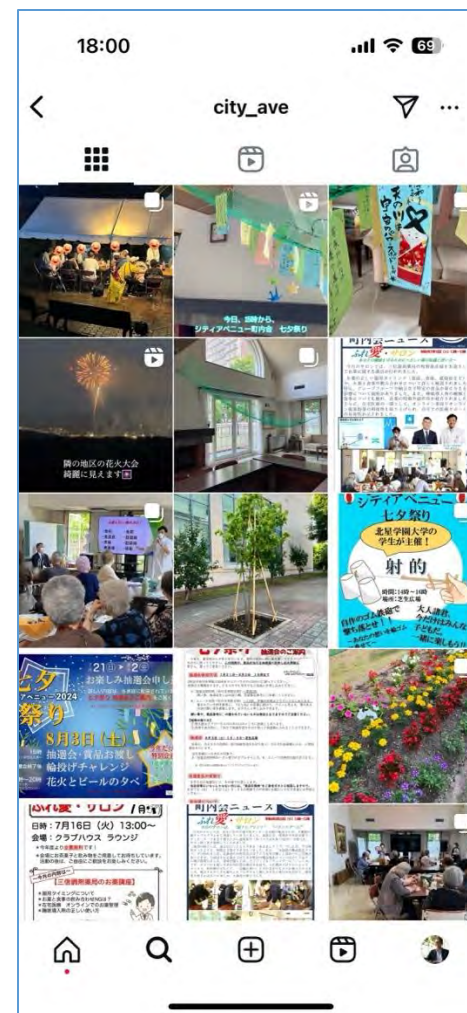
- 町内会の情報をFacebookページでもアップして広く周知しています。





## ●Instagramによる町会の情報発信

- 町内会の活動を写真や動画で発信します。



## 閉鎖的印象・不信感

### ●外部からは閉鎖的な印象～オープンな運営へ

- 町内会が閉鎖的で、一部の役員だけで行われているといった印象があります。
- 役員会には誰もが自由に参加できるようにしましょう。
- 役員会は多くの方が参加できる時間帯に開催するようにしましょう。
- これからは役員会をオンラインで開催することも必要です。

### ●役員の任期にも配慮

- 役員の任期が長いことも閉鎖的な印象を与えてしまいます。
- 役員の交代を促す仕組みも検討しましょう。

### ●世代交代や新たな人材を確保

- 在宅ワークなどで、地域コミュニティに関心を持ち始めた若い世代もいます。
- 世代交代を促すチャンスが来ています。
- 若い世代に届く情報発信が必要です。
- 若い世代が関心のあるテーマの活動について、協力を依頼してみましょう。

## ●担い手の確保

こんな町内会になっていませんか？

- 役員同士の絆が強すぎる・仲が良すぎる
- 役員の男女比率の偏りが大きい
- 役員の任期が長い
- 役員会は平日の昼間が多い
- 新しいことはあまりやらない
- 役員は高齢者だけである
- 活動・行事は主に高齢者を対象のことが多い
- 自治会の情報を積極的には発信していない



残念ながら新しい人材が参加しにくい組織です

# オープンな町内会運営へ

## ①誰もが参加できる

- 総会や役員会などには誰もが自由に参加できるようにします。
- 総会や役員会などは多くの方が参加できる時間帯に開催します。
- これからは総会や役員会などはオンラインで開催することも必要です。

## ②役員任期のルール化

- 役員の任期を明確にして交代します。
- 役員の任期を決め、「輪番制」など入れ替わる環境をつくります。

## ③役員定年制

- 役員の定年制を導入します。
- 役員の高齢化を防ぐと同時に、引き継ぎがスムーズに行えます。

## ④役員複数制

- 役員の負担を軽減するために、役員を複数制として代替わりがしやすいようにします。
- 前任者と新任者が重複する期間を設けることで、円滑に引継ぎができるようになり、新任者の精神的負担が軽くなり、継続性も確保できます。



役員は複数制にして重複期間を設けることで継続性を確保できます

## ⑤各世代から役員を選出

- 世代ごとに役員を選出することで、各世代のニーズに対応した活動や運営を行うことができます。

## ⑥町内会役員の輪番制

- 役員の輪番制を検討する町内会も増えています。
- 輪番制の導入にあたっては、以下のことを検討した上で実施することが望ましいと考えられます。

- ① 活動の棚卸しを行い、役員の仕事を簡素化します。
- ② 簡素化した仕事のマニュアルを作成します。
- ③ 様々な理由から役員ができない世帯をどうするか検討し、ルール化することが必要です。

例えば役員をやらない世帯は、会費を高くしている自治会もあります。  
また、輪番制の役員に適度な報酬を支払っている自治会もあります。



## ⑦役員マニュアルの作成



- 役員の交代を容易にするために「役員マニュアル」を作成しておきます。
- マニュアルを作成することで、役員の仕事内容の見直し(棚卸し)も行うことができます。



## (2) 加入促進のアプローチ

### ① 新築の分譲マンションの加入促進のアプローチ

建設前

マンション事業者と協議

建設時

モデルルームでの勧誘

入居後

管理組合と協議・連携

継続的な勧誘活動

- 購入者に説明する「重要事項」に町内会加入ができることを記載してもらう。
- モデルルームに町内会パンフレットを置いてもらい、配布の協力を依頼する。
- 町内会のパンフレットを配布してもらう。
- 関心の高い子どもイベントや防災活動などを実施していることをパンフレットに記載することが大切である。
- マンション事業者から管理会社を紹介してもらう
- 管理組合設立時に町内会の説明会開催させてもらう。
- その後、管理組合と町内会加入について依頼すると同時に、町内会の情報をお知らせできるようにする。
- 入居直後はウェルカムイベントなどを開催する
- マンション住民が気軽に参加できる「散歩会」や「子どもイベント」を開催ながら勧誘する。



## ②新築の賃貸集合住宅の加入促進のアプローチ

建設前

事業者と協議

- 事業者に町内会加入および町内会活動の協力依頼を行う
- 1棟ごと町内会に加入してもらえる依頼する

管理会社と協議・連携

- 事業者から管理会社を紹介してもらう
- 町内会加入と町内会活動の協力を依頼する
- 住民への情報提供の方法(掲示板やチラシ)について協議する

入居後

町内会のPR

- 入居者にはウェルカムキットとして(地域の魅力、ゴミ出し・資源回収ルール、イベント情報)などを記載したパンフレットを配布する
- 町内会活動への参加を依頼する

継続的な勧誘活動

- 住民が気軽に参加できる「散歩会」や「子どもイベント」を開催ながら勧誘する

### ③既存マンションや賃貸集合住宅の加入促進のアプローチ

オーナー・管理会社と協議

- オーナーや管理会社町内会加入および町内会活動の協力依頼を行う
- 1棟ごと町内会に加入してもらえる依頼する

町内会のPR・情報発信

- パンフレットなどの配布(地域の魅力、ゴミ出し・資源回収ルール、イベント情報などを記載)
- 若い世代がアクセスしやすいInstagramで町内会の情報発信を行う
- お祭りなど未加入者も参加するイベントでPR
- ニュースレターなどを発行し、掲示板に掲載する

気軽に参加できる機会

- 未加入者も気軽に参加できるイベント(地域清掃活動、お祭り、子育てサロン、ハロウィン、オープンカフェ)などや防災活動などを開催し、町内会をPRする
- コミュニティの場でコミュニティカフェ、町内会居酒屋、地域食堂など気軽に参加できる機会をつくる